

秋建時報

秋建時報

平成19年5月1日(第1157号)



発行/(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



「滝」 絵・文・白澤 恵舟

全山が新緑の初々しさに溢れている。薫風を巻き込んで落下する滝の音はまさしく大自然の音楽。

春の園遊会

会長 菅原 三朗

「天皇皇后両陛下には来る四月二十六日赤坂御苑において御催しの園遊会にお招きになりますので御案内申し上げます」平成十九年三月二十三日、宮内庁長官羽毛田信吾。菅原三朗殿・同令夫人。という菊の御紋章入りの御案内状をいただいた。一週間程前に、「建設業労働災害防止協会」本部から秋田県支部を通じ、「春の園遊会」へ御招待されることに内定したとの連絡があったが、全々予想もしなかったことだけに大変名誉なことであり、嬉しさもひとしおであった。

四月二十五日、家内同伴で上京都内のホテルに前泊する。前日まで雨模様でお天気が心配されていたが、

当日は朝から晴れの良いお天気に恵まれた。

園遊会は元赤坂の「赤坂御苑」での開催である。会場への参入については午後一時から一時五十分迄となっており、鮫が橋門、東宮御所正門、西門、東門の四ヶ所からの参入であるが、私共「黄色」の自動車標識を付けた車は東門からの入門となる。私は紋付羽織袴・家内は白襟紋付で二人共和服の正装で出席をした。入門後参入券を皇宮護衛官に示し、渡された名札を付けて会場に入る。

はじめて入る御園内は、新緑にまつまれたすばらしい広大な日本庭園である。大きな二つの池を囲んで周囲が散策路となっており、所どころにテントが張られ、茶菓が供されておりどのテントでの飲食も自由である。中央付近には宮内庁皇宮警察音楽隊及び雅楽演奏隊による、雅楽・洋楽が奏されていた。

散策路を一巡するが、どの地点でも素晴らしいロケーションばかりである。招待者は各国外交使節団の長及び配偶者、各界功績者と配偶者等千九百七十名と聞いたが、散策の途中で県の品田出納長さん御夫妻及び元昭和町長千田鐵太郎さん御夫妻とも歓談をした。

やがて午後二時十分に、天皇皇后両陛下が会場にお着きになり、君が代が演奏される。午後二時二十分より庭園内の散策路を、池の周囲のお道筋をお廻りになられた。式部官長が先導し、天皇皇后両陛下につづき、皇太子様、秋篠宮ご夫妻、常陸宮ご夫妻、高円宮妃久子さま及び供奉員が随従された。両陛下をはじめ各宮様も末場の皆様に親しくお言葉をかけられていた。やがて三時三十分頃会場をお発ちになられた。心に残る一大ガーデンパーティーの一日であった。

平成19年度 第1回理事会

県協会は4月3日、秋田県建設業会館にて平成19年度第1回理事会を開催した。

会議では、常置委員会の開催結果報告のほか、平成19年度事業計画骨子などについて協議。業界のあり方、協会の存在意義などについて議論が交わされ、今年度事業において具体化していくこととした。

議題は次のとおり。

報告事項

・常置委員会の開催結果について

協議事項

- ・平成19年度事業計画骨子（案）について
- ・事業評価検討委員会（仮称）の設置について
- ・特別会計の統廃合（案）について
- ・平成19年度以降の分担金（案）について



雇用改善推進 委員会を開催

推進方針、実施計画など承認

県協会では、4月27日（金）秋田ビューホテルにおいて、秋田労働局、秋田県及び関係団体により雇用改善推進委員会を開催した。

会議の冒頭、堀井委員長は「建設業を取り巻く環境は、高齢化、少子化による人口の減少、特に秋田県の人口減少は8年連続減少傾向にあり全国1位になっております。このような中、雇用情勢も歯止めのかからない状態となっており、新たな入職者の減少、他産業の競争、ダンピング受注による労働者へのしわ寄せ等、依然として厳しい状況となっております。忌憚のないご意見をいただきたい」とあいさつ。

引き続き議題に入り事務局から平成18年度雇用改善推進事業（第2種）実施事業報告、平成19年度雇用改善推進方針（案）、平成19年度雇用改善推進事業（第2種）実施計画（案）について説明がなされた。

事業実施計画では、概ね継続事業として秋田県建設雇用・改善推進大会の開催、入職促進に向けた人材確保・育成推進協議会、建設系工業高校教諭との懇談会、高校生の現場見学会・インターンシップの実施、建



設女性技術者交流会を開催することとし、推進方針、実施計画について承認された。

また、委員からの意見として、「助成金について、期間や内容について建設業に適した産業別にもっと使い勝手がいいものになったほうがいいと思う」「雇用推進委員会というネーミングだが、今の時代は雇用の確保すら難しい時代になっている。行政側へ雇用の条件の悪化の実態を発信していけるような会になればいいと思う」等の意見が出され、「業界は事業が継続できないとダンピング等により労働者にしわ寄せが来る。生活するうえでどれだけの賃金が必要か、安ければいいという考えではなく、生活の基盤はどこになるのかということを考える時代になっている。みなさんとともに勉強していかなければならない」と堀井委員長が述べ閉会した。

青年会

地域の防犯パトロール活動を応援 平鹿建設業協会建青会

平鹿建設業協会建青会（下々村正樹会長）では、4月12日に18年度よこて元気ファンド事業の対象団体となった横手市大森町の前田地域見守り隊（平元鉄雄会長）に、防犯パトロールを応援する看板を贈呈した。秋田県建設青年協議会の平鹿子供見守り隊として自主防犯活動連絡協議会に参加したことが縁で今回の支援の対象となった。市町村合併前から防犯団体の活動が活発でいろいろな分野で地域の安全を守っているが、新横手市になってから助成金が不足し、活動を維持していくことが困難になっている団体が多いのが現状だ。建青会は北海道建青会が取り組んでいる「くしろ・ねむろ元気ファンド」を参考にして、平成18年度から50万円の「よこて元気ファンド」

を創設、横手市を元気にする市民活動に積極的に参加し支援事業を行っている。平成18年度はこの他に横手川水辺のふれあいフェスタ実行委員会と日本ビオトープ管理士会秋田県支部と協力して自然保護に取り組む『清水沢川にホタルを呼ぶ会』にも支援している。



ご案内

表彰式・第75回 定時総会

（社）秋田県建設業協会

（社）秋田県建設業協会では5月24日（木）、表彰式並びに第75回定時総会を下記により開催致します。

記

○表彰式

- 時間 午後3時30分～
場所 秋田キャッスルホテル（矢留の間）
- ・社団法人 秋田県建設業協会表彰
 - ・社団法人 全国建設業協会表彰伝達
 - ・社団法人 建設業福祉共済団表彰伝達
 - ・社団法人 全国土木施工管理技士会
連合会表彰伝達

○定時総会

- 時間 午後4時00分～
場所 秋田キャッスルホテル（矢留の間）

○懇親会

- 時間 午後5時10分～
場所 秋田キャッスルホテル（放光の間）

運営委員会を開催

総合評価方式研修を検討

秋田県土木施工管理技士会は、4月25日、秋田県建設業会館において運営委員会（橋本一康委員長）を開催した。

会議では、平成18年度事業報告・収支決算の状況が報告されたほか、平成19年度の事業計画・収支予算についての検討がなされた。

新規事業としては、総合評価落札方式における施工計画書のまとめ方をテーマとした研修を事業計画に盛り込み5月15日の理事会・代議員会へ提出することとした。



(財)建設業福祉共済団から 建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

情報コラム Vol.12

「条件付き一般競争入札」における手続について

秋田県では4月より、原則として請負対応額4千万円以上の工事において、「条件付き一般競争入札」を導入しました。

不良不適格業者の排除や工事の品質の確保、県内業者の育成などの観点から、従来どおりの地域要件、格付要件等を付した「条件付き一般競争入札」となりますが、以下の手続上の変更点にご注意下さい。

- 「入札参加資格なし」と判断された落札候補者は、資格確認結果通知書の受理の翌日から起算して2日以内に、その理由について説明を求められます。
- 入札参加資格において、「秋田県税及び社会保険料に滞納がないこと」を要件とします。落札者には、落札決定後に発行された県税納税証明書及び社会保険料納付証明書を提出していただきます。
- 1人の技術者を複数の入札において配置予定技術者とした場合は、複数の入札で落札決定されて契約辞退・再入札とならないよう、1件の入札で落札したときは速やかにその旨を報告していただきます。

手続の流れ等詳細については下記のアドレスのホームページにてご参照いただけます。

<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1175169508246/files/joukentsuki.pdf>
 (秋田県建設交通部建設管理課ホームページ掲載、PDF形式ファイル)

土木建築の近代化遺産

No.57

横荘線鉄道のトンネル群

横手市雄物川町・由利本荘市老方



横荘線は大正から昭和にかけて路線運行した民間の地方鉄道である。大正三年（一九一四）に横手と本荘を結ぶ計画で設立された横手鉄道だが、翌々年に横荘線に社名変更され、初開業は大正七年（一九一八）の横手・沼館間であった。路線は出羽丘陵の山間部を逆S字形に設定され、横手と本荘からそれぞれ工事に着手していた。営業開始以降、翌大正八年には沼館・館合間の三・六km、さらに同九年、館合・大森間一・八kmと漸次鉄路が延びていった。そして昭和三年（一九二八）には大森・二井山間の五・四kmが開通し、同五年には山中を通る二井山・老方間の十二・一kmが開通した。

横荘線の路線跡は横手から二井山までほとんどが住宅地や県道などの道路に吸収されてしまったが、二井山から東由利の老方付近までは路線の跡が明瞭に残っている。旧雄物川町二井山から山中に入った鉄道は、二井山、御岳、金谷、浮蓋の各トンネルを通り、最後の笹倉トンネルをくぐると間もなく老方の駅も近かった。各トンネルは二井山トンネル以外、現在、小型車の通行も可能な道路で、脇を通る新しい県道と並行している。両側に山が迫る狭い切り通しの道に往時の面影を十分偲ぶことができる。また、各トンネルには補修の手が加えられており新しさが目立つが、現在、横手市と由利本荘市の境となる浮蓋トンネルは比較的、昔の姿に近いものといえそうだ。

（取材・構成／藤原優太郎）

スペインの祭り

酢屋 潔

スペインには祭が多い。何日も続く大規模な祭から風変りな祭まで色々である。

セビリヤのフェリヤはテレビなどでも放映されて有名であるがどちらかというと女性中心の祭でフラメンコの衣裳をまとったセニョリータの姿が群れてまことに華やかである。

又パンプローナでは牛と一緒に町中を走りまわりまことに勇壮であり毎年怪我人が出る程危いといわれている。

その他にもトマトをトラックの荷台一杯に積んで投げ合ったり大きな人形を燃やしたり色々様々である。

しかし、これから私が書こうとしている祭はツアーの途中たまたま出あった平凡だが二十数年経った今でも心に強く印象づけられている祭である。

その時の我々のツアーはポルトガルのリスボンからはじまった。リスボンの名は戦時中ポルトガルが中立国だった関係で世界の情報はリスボンを通じて入ってきた。そんな関係でリスボンの名はお年寄りにはなじみの名前だった。

それはさておいてリスボンの観光を二日ですましバスでスペインに入りセビリヤに夜着いた。次の日セビリヤの観光をすまし翌朝セビリヤを出発して夕方グラナダにたどり着いた。

グラナダといえばアルハンブラとなっている。このアルハンブラ観光は明日ゆっくりすることになっているので我々は今夜ゆっくりホテルで休もうとしていた。ところがスペイン語の堪能な若い娘の添乗員が興奮気味に今夜お祭があるそうなので、こんな機会はめったにないから是非見物に行こうとさそった。

我々一行は総勢十二名で年配の者が多い。バス旅行でつかれているのでお祭はやめようという人も居ったがこの添乗員の熱意に負けて祭り見物となった。

お祭といえば世界各国共通で宗教に関するものが多い。スペインの主たる宗教はカソリックであるが聖母信仰が盛んであるという。

添乗員からそんなことを聞き乍ら我々は会場に行くことにした。

会場はメインストリートのグラン・ビア・デ・コロンでホテルから歩いて楽に行ける。

この地方はグラナダを含めてアンダルシヤ地方という。スペインの南都でセビリヤ、コルドバなども含まれている。有名なコスタ・デル・ソルもこの地方の海岸で観光客でにぎわっている。コスタ・デル・ソルとは太陽の海岸という意味でさんさんたる陽光で有名である。セビリヤに着いた時土地のガイドがもう一ヶ月間以上も雨が降らないとなげいていた。

我々がメインストリートまで歩いたのは夕方間近い時間だったがアンダルシヤの灼熱の太陽はまだその勢を失わず強烈に通りを照らしていた。しかし、空気が乾燥しているせいか日陰に入るとひやっとして気持が良い。

現地はまだ人通りがまばらで我々のようなツアーの客とか一目で外国人とわかる人が多く見られた。通りを進んで行くと右側に折りたたみ式の椅子がずらりと並べてあった。

女達は「あら、スペインの人は親切ね、座りましょうよ」などと云い乍ら座ったので一同皆座ることにした。私ははじっこだったので隣りはアメリカ人らしい夫婦が座っていた。

しばらく無駄話をしていたらいつの間にか歩道の人通りが多くなり灼熱の太陽も影をひそめていた。しかし、もう七時にもなるのに日が暮れるにはまだまだと思わせ

る街のただずまいだった。

そんな折メキシコ風のひげをはやした褐色はだの中年男が座っている人に何やら話をしている。どうやらショバ代を取っているらしい。やがて我々のところに来て五本の指を出した。五百ペヤタというのである。これは日本のテキヤのような地廻りであろうか。我々は万国共通だね、などと話し合っただ笑った。

そんな話をしている間にいつの間にか道の両側を長いローソクを持った男女が列をなして歩いている。ローソクの長さは五十粒もあるだろうか、そして太い。よく見るとこの人達正装しているようだがにこりともしない。しかし、晴着の子供は親にたしなめられても活発に動きまわっていた。

行列は延々と続き絶えることはない。ツアーの仲間の誰かがはだしの人もおる、と言ったので目をこらして見たらポツンポツンとはだしが見えた。貧乏人にも見えないうしジプシーらしくもないしと思っていいたら、やがてそれは去年肉親を亡くされた人だ、との情報もたらされた。発信は彼の添乗員らしい。

さて、ローソクを持った人の列は続々と続き服装も段々立派になってきた。やがてローソクの灯が少し目に付く頃どよめきが起り旗をかかげた少年・少女を先頭に現れたのは少年少女のブラスバンドだった。白い服に身をつつみ清涼感にあふれていた。よく注意して見ていると行列の人は男より女の方が断然多い。なぜだろうと博学のコンダクターにたずねたが知らないという。

ようやくあたりを夕闇がつつむ頃歩道は人であふれ通りに面したビル窓という窓は人の顔で鈴なりになっている。

又軽いどよめきが伝わってくると白い僧服の人が鉾のようなものをささげて横一列に並んで進んで来た。そしてその後から黒い服を着た一団がゆったりと歩いて来た。その中には市長をはじめ市の有力者の殆どが含まれているというからいよいよおみこしの登場と期待が高まった。おみこしに乗っているのはこの町の守護神であるという。ところがこのお偉方道路の真中で会議をはじめた。ツアーの一行は今更何の会議だろうといささかあきれ顔だったが行列の間をつめているようでもあった。

両側のローソクをともした行列は依然として絶えることなく見物人はみこしの到来を今か今かと待っていた。

その時だった何か天空からのざわめきのようにもあり又地から伝ってくる地鳴りのようでもある合成音が我々の五感にひびき段々強さを増して大歓声となった。このざわめきが言葉となってリーヤ、リーヤの大歓声となる中を正装した若者にかつがれておみこしの守護神が現れた。頭に金の冠を頂き全欄のケープまとった若い女性姿だった。

これぞまさしくマリヤ様だ。スペインでは大多数がカソリックだがその中でもマリヤ信仰が多い。そこで先程のリーヤの声はマリヤと叫んでいたことがわかった。しかしこの熱狂は何々だろう。皆憑かれたようにマリヤと叫んで十字を切っている。

我々はこの異状な熱狂に圧倒されて只杳然と守護神の通り過ぎるのを見守っているしかなかった。おみこしが通り過ぎると人々は波が引く如く通りから引いて小路へと押し寄せていった。

我々も小路のセビリヤというレストランに入りビー(ワイン)とガンバス(エビ)で食事をとり先程の祭りについて語り合った。

スペインは大まかにいえば大昔ローマに征服されたが次いで西ゴート族に占領され、更にイスラムに侵入され(約八百年)一四九二年ようやくレコンキスタ(国土回復運動)により現在の状態になった。キリスト教は西ゴート族がもたらしたものとわれている。このキリスト教徒がイスラムに圧迫されて周辺地区でかろうじて余命を保っていた。この人達が長い年月国土回復運動により領土を回復した。この何百年に亘る艱難辛苦が今日のスペインの宗教に大きな影響を与えているのではないか。我々の夕食は時ならぬ異国の祭りの熱気に当られて柄にもない宗教談義になってしまった。